

The precious gift for GENTS

約500ブランドが集う、メンズファッションの聖地

ファッションに 精通したふたりが語る ギフトの意味とは

大住憲生さん（以下大住） 一般的にギフトというと相手のことを考えてとか、ストーリー性が大切とかいいますが、自分がいいと思うものを贈るというのもありですよ。

中野香織さん（以下中野） そのほうが相手にとっても世界が広がりますし、関係性を構築するという意味では豊かになるような気がします。

大住 これまでもらったもので嬉しかったのは、黄色いホースです。黄色を選ぶセンスが絶妙だなあ、と。もうほうを試している感もあるし（笑）

中野 私も相手が普段買わないようなクオリティのソックスを贈ることもあります。色は無難なものを選んでいました。大住さんの例を聞くと、ギフトが新しい発見につながることもあるのだから、次からは大胆に選んでみます。

大住 中野さんがこれまで貰ったもので、印象に残ったものは？

中野 イニシャル入りのハンカチ。イニシャルを入れてくれたという、そのひと手間が嬉しかったんです。例えば手書きのカードを添えるだけでも、儀礼的な印象は緩和されるじゃないですか。そういう心遣いが、モノをギフトに格上げします。

大住 贈る側の立場からすると、モイスタライジングクリームはいいとおもいますよ。男女を問わず贈られるものですし、大きいサイズなら存在感もある。よろこばれますよ、きつと。

中野 女性なら、それは嬉しいですよ。私もぜひ、欲しいです（笑）

大住 男性に贈るのであれば、マネークリップなどもいいですよ。いずれにせよ、あれこれ使い回せるものより、用途が限定されるもののほうが記憶に残るのかもしれない。

中野 万能より限定が記憶に残る。なるほど。相手の記憶に残るギフトは、日頃の付き合いのなかにヒントがあると思うんです。だから相手の言葉や行動に注意を払うことが大事。その結果、関係も深まりますね。

大住 自分へのご褒美じゃないけれど、ぼくはロンドンにあるシャツメイカールのパジャマやガウンを買ったりしますね。

中野 私はあまり自分には買いませんね（笑）。ご褒美の代わりに寄付をしたり、世の中に還元することが多いです。いま自分が仕事をいただけるのも、世の中が回っている状態だからで、仕事ができることに対してのお礼という意味も含めてです。

大住 人にもものを贈るといえるのは、相手と自分自身を考えることですよね。相互理解の、その深さを確認する儀式のようなものかもしれませんね

中野 ギフトとはお互いの関係を確認したり、続けていくことに意味を与えることだと思っんです。だから価格を意識せず、プライスレスに感じさせることも大切ですね。



PHOTO: Yasuhiro Shimoka

大住 憲生 ファッションディレクター
おおすみ のりお

1954年熊本生まれ。都市と森のつながりを創出する株式会社モア・トゥリーズ・デザイン取締役スパーバイザー、大学非常勤講師。



中野香織 服飾史家
なかの かおり

服飾史家として研究・執筆・講演のほか企業の顧問教授を務める。日本経済新聞はじめ多媒体で連載中。ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授を歴任。著書「紳士の名品50」他。

Hankyu MEN'S